

「有言実行」

池田市長 倉田 薫



愛する池田の明日のために

早いもので、今年68回目の誕生日を迎えました。18歳で政治家を志した私ですから、実に50年もの長い時間政治や行政と向かい合ってきたこととなります。

「趣味は仕事やもんね」時折、家内の口から発せられる言葉は胸にグサッと刺さりますが、その通りです。

22歳で池田市役所に奉職、26歳で池田市議会議員に当選、5期20年を経て、46歳で池田市長に就任、少々紆余曲折があったものの4年間の空白期を経て、現在池田市長6期目となっています。昨年の選挙でのスローガンは「愛する池田の明日のために」で



「上方落語資料展示館」オープニングの鏡開き（筆者右から2人目）（平成19年4月）

した。家内の言葉は私の半生を隣でずっと眺めてきた者としての本音なのでしょう。「あなたは池田市と結婚したようなものだから」折に触れて発せられる彼女の口から感じられる「あきらめ感」には、本当に申し訳ない思いがいつぱいで頭が下がります。

44歳になる長男を筆頭に26歳の次女まで、2男2女の4人の子どもたちも皆、妻と同じ思いなのでしょうが、その私の仕事について一度も愚痴をこぼしているのを聞いたことがありません。何だかんだ言いながらも「お父さん中心」の家庭教育を貫いてくれた妻のおかげとこれまた頭が下がる思いです。

残り少ない私の人生、やはり趣味は仕事、「愛する池田の明日のために……」ということになりそうです。

インスタントラーメン 発祥の地・いけだ

本市は、上方落語「池田の猪飼い」等の舞台となった地ですから、「落語のまち」を標榜しています。その中核に座っていたいただいているのが現桂文枝（元三枝）師匠です。世界でただひとつの「上方落語資料展示館（落語みゅーじあむ）」の名誉館長もお務めいただいています。おかげさまで多くの落語家さんとの出会いの機会がありました。前述の落語みゅーじあむのオープニング記念の鏡開きで、故桂米朝師匠、故三代目桂春



「インスタントラーメン発明記念館」開館100万人目来館者時に、功労者の安藤百福翁に感謝状を贈呈（平成18年7月）

團治師匠のお二人にお顔合わせいただいたことは、もう願ってもかなわぬこと、本当に感動の一瞬でした。

本市はまた「卓球のまち」を標榜しています。これは元世界卓球チャンピオンの小山ちれ氏が日本国籍を取得し、地元池田銀行の卓球部の主力選手として活躍するとともに卓球部廃部となった今もジュニアや女性の卓球指導にあたっていることにちなんだものです。本市がなみはや国体の卓球大会会場となったこともあって、平成8年より「卓球のまち」を標榜しています。

本市はまた「ラーメンのまち」でもありません。1958年8月25日、20世紀最大の発明とも言われるインスタントラーメン（チ



ガンバ大阪主催「池田市民 応援デー」3万数千人の観客が見守る中、ホーム球場でキックイン（平成28年6月）

えてお応えしたら、何とその翌年（平成11年）には、池田駅の南側に「インスタントラーメン発明記念館」を安藤スポーツ・食文化振興財団の手で建設・開館して下さったのです。「倉田市長に建てさせられた」安藤百福翁の口癖でしたが、そういう口元がいつもほころんでいたことを昨日のように思いだされます。そのイン

スタントラーメン記念館があっても良いのでは、と思っています」。少々の希望を添えてお応えしたら、何とその翌年（平成11年）には、池田駅の南側に「インスタントラーメン発明記念館」を安藤スポーツ・食文化振興財団の手で建設・開館して下さったのです。「倉田市長に建てさせられた」安藤百福翁の口癖でしたが、そういう口元がいつもほころんでいたことを昨日のように思いだされます。そのイン

薫風政治塾

スタントラーメン発明記念館は今や年間75万人の来場者となっています。

ところで「趣味は仕事」の私にも、神様は4年間という空白の時間（平成23年から平成27年）を与えてくださいました。その空白の4年間、「一体、私は何をしてきたのだろうか？ 妻との時間を大切にできた訳でも無いし、家族との時間を大切にできた訳でも無いな」ふと、そう思う時があります。まあ、それでも少々心が病んでいた次女との触れ合いの時間を多く作れたことが次女の立ち直りのきっかけとなり、結婚を前に今、力強くがんばってくれているのかな、そう自分に言い訳をしている自分が居ます。

「将来は政治家を志す青年を対象とした塾を開設したい」そんな夢もっていた私は、せっかく神様が下さった時間を、やっぱり「政治や行政と向き合う時間」としてしまいました。地方政治家を目指す人たちのために「薫風政治塾」を立ち上げたのです。政治塾をたち上げて早や4年半になろうとしています。大阪の北の端、池田で誕生しました。ちっちゃなちっちゃな政治塾ですが、市議会議員8名、府議会議員1名等、塾生、オプザーバーを含め、およそ20名が名を連ねてくれています。市長に復帰した現在も月に1〜2度、塾を開かせていただ

いて「二元代表制における首長と議会その役割と責任」等をテーマとして、意見交換をしながら学ばせていただいています。私としては、学生時代に戻ったような感じで、池田市長に復帰した今も、その時間を楽しませていただいています。

有言実行

その昔「膏薬こうやくは剥はがすもの、公約は破るもの、それが政治家なんだよ」そう言って笑っていた方がいました。「それは無いだろう」そう思いました。「それが政治家だと思われているのだとしたら、政治家が自ら進んでそうでは無いことを示すべきだし、少なくとも私はそう言われるような政治家になるもんか」そう決意し、今でもその姿勢を貫き通しています。

「不言実行」謙譲の美德かもしれませんが、政治家はやはり「有言実行」でなければと思っています。思ったことを言葉にあらわす、時には文字にして表すことも……。今後とも池田市長とびある記（平成8年9月20日の発信以来、この11月10日で3836回の発信となります）や毎月1回、市民と市政を語る「ちよつと気ままなティータイム」等で大いに語り、文章に表し、そして、その自分の吐いた言葉に拘束（？）されながら「愛する池田の明日のために」をモットーに、悔いのない人生の歩みが続けていきたいものです。